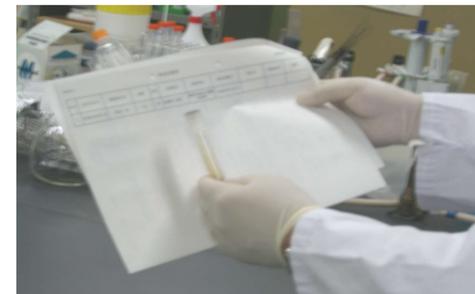
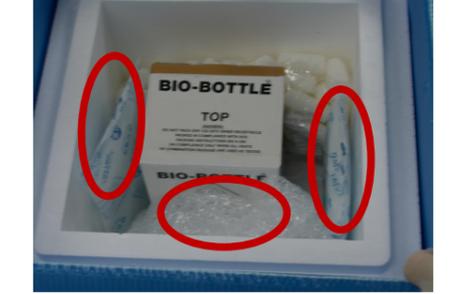
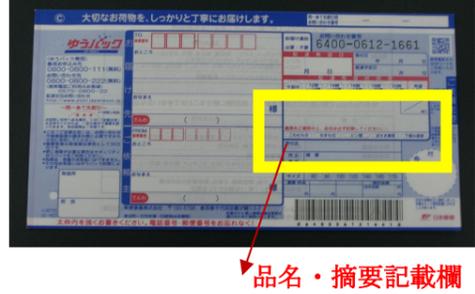


病原体等の梱包の手順

	<p><必要物品></p> <ul style="list-style-type: none"> ・一次容器 ・二次容器 ・外装容器 ・オーバーパック ・吸収材 ・緩衝材 ・酒精綿 ・テープ(パラフィルム等濡れても剥がれないテープ) ・ガムテープ ・はさみ ・内容物項目リスト ・検体名記載用ラベル ・ゆうパック送付状 				
<p>梱包に必要な物品を揃える。</p>		<p>検体名と検査依頼書及び内容物項目リストが一致しているか確認する。</p>	<p>一次容器の蓋が確実にしまっていることを確認する。</p>	<p>一次容器表面消毒は、明らかな汚染がなくても適切な消毒薬で清拭する。</p>	<p>一次容器の周囲をテープ(パラフィルム等濡れても剥がれないテープ)で固定する。</p>
					
<p>一次容器内の液体全体を吸収できるだけの吸収材で包む。</p>		<p>吸収材に包まれた一次容器を、緩衝材で包み二次容器に入れる。</p>	<p>二次容器内に隙間がないよう緩衝材を入れて固定する。</p>	<p>二次容器の蓋をしっかりとめる。</p>	<p>二次容器が外装容器の中に正しく入っているか確認する。</p>
	 <p>カテゴリーAの場合 カテゴリーBの場合</p>	 <p>ドライアイス はここへ</p>			
<p>内容物項目リストを二次容器と外装容器の間に入れる。</p>	<p>外装容器の表記を確認する。</p>	<p>UN番号記載</p>	<p>天地無用のマーク 荷送人、荷受人および緊急連絡先を記入する。</p>	<p>保冷剤やドライアイスを使用する場合は、保冷機能を持つ専用の外装容器内またはオーバーパック内(非密閉性)に入れる。</p>	<p>ドライアイスを使用する場合は、オーバーパックに①ドライアイス(UN1845)の危険性ラベルを貼る。また、②「Dryice(ドライアイス)〇kg」を表記する。</p>
			 <p>品名・摘要記載欄</p>		
<p>オーバーパックを用いる場合は①「OVERPACK」と表記し、上記13についても表記する。 ②荷送人、荷受人連絡先 ③カテゴリー(写真の例ではカテゴリーB)</p>	<p>オーバーパック内の保冷剤や外装容器を固定するため、緩衝材を入れる。</p>	<p>ドライアイスが入っているオーバーパックは、外装容器の外観の変化がないかを確認する。</p>	<p>ゆうパックの送付状を記載する。 ①受取人及び送付人の名称・住所・緊急連絡先 ②品名:「臨床検体、危険物」「病原体・危険物」、 ③ドライアイス使用時は摘要に「ドライアイス在中」と記載する。</p>		<p>ゆうパックの送付状および安全性適正包装確認済みラベルを添付する。 作業者と包装責任者でチェックシートを用いダブルチェックを行う。</p>